

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4271401087		
法人名	社会福祉法人恵光会		
事業所名	グループホーム南串山荘		
所在地	長崎県雲仙市南串山町丙10719番地		
自己評価作成日	平成 29年 8月6日	評価結果市町村受理日	平成29年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成29年9月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当施設は南串山町の高台にあり地元の景色を眺めることが出来、入居者の安らぎに繋がっている。隣接するデイサービスへの慰問などにも参加でき、他者や知人の方との交流を図り、馴染みの関係を大切にしています。町内の祭りや福祉運動会等にも参加し地域との関係も大切にしている。又、整体師の資格を有する職員が所属しており、状態に応じて受けることが出来る。軽体操を日課とし、風船パレーなど全員で楽しみながら体力維持に努めている。毎日の食事も管理栄養士の献立を参考とし、一人ひとりに合わせた食事形態で提供しており、皆さんに喜んで頂いています。施設や居室内に季節の飾りや、皆さんで作成した作品を飾り明るい雰囲気の中、生活しています。職員は研修や上司との面談を定期的に行う事で自分を高め、より良いケアの提供を心掛け、入居者一人ひとりに合わせたケアを行っています。最低年2回の避難訓練も実施しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームの窓からは、橘湾に沈む夕日や、段々畑を見渡すことができ、入居者の心の安らぎに繋がっている。玄関を入ると職員の写真を分かり易く掲示されており、リビングにはウサギと月の貼り絵が飾られ、季節感を感じることができるよう配慮されている。日当たりが強い部屋には斜光や温度調節を適宜行い、居心地良く過ごせるよう配慮されている。運営理念「尊厳ある暮らしの支援・心安らぐ暖かい雰囲気をつくります」を基に月間目標や課題をミーティング時に話し合い、尊厳のある暮らしの支援に努められている。また、職員は、自己評価(能力開発カード)を実施し、それを基に年4回、上司と面談し、職員の目標に対して、アドバイスや要望を聞いて、運営・介護実践に活かされている。入浴する際には、職員と一緒に歌を唄ったり、会話をしたり、また、季節に応じて菖蒲湯や柚子湯を楽しめるよう支援を行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をみやすいところに掲示、意識付けしながら実践している。	運営理念「尊厳ある暮らしの支援・心安らぐ暖かい雰囲気をつくります」を基に月の目標や課題をミーティング時に話し合い、職員間で共有し、尊厳のある暮らしの支援を心がけて介護実践に努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや運動会に参加。地域の方々のボランティア、慰問の受け入れをおこなっている。	小学生・中学生の福祉体験の受け入れや、夏祭りや敬老会の行事に家族や地域の方の参加があり、地域との交流に努められている。職員は折り紙で作品を作成したり、コケ玉作りの経験もあり今後も積極的な地域との交流に期待が持てる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加頂いた民生委員や市役所職員の方に認知症の方の支援の方法等を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて事業所での新しい取組等を紹介し、ご理解を頂いている。	年6回運営推進会議が開催され、行政・入居者・地域の方・職員の参加があり、事業所の様子を知らせている。案内状を出しているが、家族の参加が少ないのが現状である。今後、会議のテーマを考え、興味を持って家族も参加してもらえるような会議となることを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて事業所での新しい取組等を紹介し、ご理解を頂いている。	担当者には運営推進会議に参加してもらい、介護保険の情報を提供してもらうなど、協力関係を築くよう取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修や職員同士のミーティングの場で身体拘束禁止についての知識を深めている。	玄関には鈴を付けて察知できるよう対応し、日中は施錠をしない方針であることが窺える。外部研修にも今後参加予定である。職員の声のかけ方などで、気づいた点は注意し、身体拘束のないケアに努められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修参加や職員同士で資料を持ち合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度利用者はいないが、研修の機会があれば参加して知識を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、質問等があればわかりやすく、お答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や、面会時にご家族と話す機会を増やしている。家族会を計画していきたい。	職員は意見を上手に表す事のできない入居者に対し、その方の表情から困っていないか話し掛けてみるよう配慮されている。家族には面会時等に要望を聞き、プランに反映している。10月には家族会を開催する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員のミーティングにて意見交換を行っている。	職員の自己評価(能力開発カード)を行い、年4回幹部と上司の面談により、それぞれの職員の目標に対してアドバイス・要望を聞いてもらい、運営や介護実践に活かすよう努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に4回面談を行い、各自目標設定を行い、達成に向け話し合い、実行している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	雲仙市や半島の会議に参加し他施設の方との意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の不安を取り除く為に要望を聞き、不安にならない様に穏やかに対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、又は面会時等にご家族の要望や質問等に耳を傾け、対応等の内容を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と面会をしてアセスメントを行い、必要であれば他のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは、して頂き、家事や軽作業など職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報交換を行い、若い頃の話や、好きな事など伺い、支援の参考にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接する施設に知り合いの方が居れば面会したり、地元をドライブしたり、と定期的に行っている。	隣接している同法人のデーサービスの利用者や、介護付賃貸住宅の知り合いの方が遊びに来られたり、遊びに行ったりして、馴染みの人と交流し、関係が途切れないように支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮し、テーブル席の配置や、レク等で交流の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出先でお会いした時など現状を聴き、相談等あれば、お答えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	状態把握に努めるように、交流の場を増やす。訴え時はきちんと対応する。様になっている。	入居者の状態や表情を観察し、本人の思いを汲み取るよう支援されて。ヒヤリハットの記録はメモを取るようにして書式を簡素化し、ヒヤリハットの内容と発生時間から本人の意向を把握し、プランに反映するよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、又ご家族にこれまでの生活歴を尋ね、ケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアで観察を行い、適切な対応に心がけている。職員同士の引き継日も忘れない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の希望、医師の助言など、あらゆる情報を元にカンファレンスを開き、利用者様にとって、最良のプラン作成を心がけている。	ケアチェック表を付け、それを基にカンファレンス会議で話し合い、ケアマネージャーが介護計画を立案し、本人家族に説明して同意を得ている。入居者全員のケアプランを集約した一覧表を配り職員間で共有し介護の実践に取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内の事業所と連携を図り対応したり、医療、又は他職種との情報交換を行い、ニーズに対しての支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出先でお会いした時など現状を聴き、相談等あれば、お答えしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態把握に努めるように、交流の場を増やす。 訴え時はきちんと対応する様にしている。	かかりつけ医を職員対応で受診し、受診をする時には、それぞれの入居者の状態がわかる介護記録のファイルを持参し、病状が説明しやすいように支援されている。病状に異変があった場合は、家族へ電話連絡をして支援に繋げるよう努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人、又ご家族にこれまでの生活歴を尋ね、ケアに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々のケアで観察を行い、適切な対応に心がけている。職員同士の引き継日も忘れない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族の希望、医師の助言など、あらゆる情報を元にカンファレンスを開き、利用者様にとって、最良のプラン作成を心がけている。	これまでに看取りは実施していない。重度化した場合は、家族・医師・職員と相談して、食事が入らなくなったら、医療機関へ繋げている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明し、重度化でどこまで対応するかの説明をして同意書を得ておく事が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のケアの中で、発見したこと、感じたこと、利用者様の言動等を元に、職員間で情報交換を行い、改善しながらプラン変更をしてケアにあたっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	同法人内の事業所と連携を図り対応したり、医療、又は他職種との情報交換を行い、ニーズに対しての支援を行っている。	避難訓練は夜間想定で消防署立ち会いや自主訓練で年2回行われており、隣接する事業所の協力体制がある。避難する際には、塀にしている金網の一部を開閉式にして避難し易いように対策をされている。備蓄品を揃え、一覧表を作成し確認しやすくされている。	最近では自然災害が顕著となっていることもあり、ハザードマップを入手し近隣の危険地域の確認をしておく事を期待したい。また、一人ひとりのフェースシートを1冊にまとめて災害時に持ち出せるようにしているので更に本人確認がしやすい様に写真(顔・全身)を添付しておくことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、使い慣れた言葉などを取り入れ、プライバシーに配慮した声掛けを心がけている。	事業所の理念に基づき、尊厳を大切にし、真心を持って入居者と接するよう努められている。排泄で失敗された入居者には小声で接し、プライバシーを損ねない言葉掛けや対応に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	発語が困難な方でも、ハイやイエで答えられるような言葉かけを行い、自己決定を引き出せる様工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、一人り一人のペースに合わせ、待つ姿勢を心がけケアにあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時等、身だしなみのお手伝いをさせて頂き、一日の始まりを気持ちよく迎えて頂ける様、心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が安全に摂って頂ける様、食事形状や味付け、ペースなど工夫をして、安心、安全に食事が摂れるよう心掛けている。	食事の献立は、母体法人の栄養士が1週間分ずつ立て、職員が交代で調理をしている。入居者の状態に応じてキザミ食やトロミ食を提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリー計算のとれたメニューを栄養士と相談しながら、心臓や腎臓病等の病気にも配慮した食事提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、自分で出来る方は自分でして頂き、職員で磨き残しや、異常がないか確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うことで、パッドなどの使用を減らし、家族への負担軽減に取り組んでいる。	排泄チェック表により、時間を見ながらトイレに誘導されている。できる限りオムツの使用を減らし、家族への負担軽減を図られていることが窺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便を促すため、水分、食事量、適度な運動を心がけ、時には薬による排便コントロールを支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	福祉用具を活用し、利用者様が安心して入浴ができるよう心掛け、希望に添えるよう、時間帯を変更しながら対応を行っている。	週2回入浴を行い、リビング兼台所に入浴日を掲示している。入浴する際には、職員と一緒に歌を唄ったり、会話をし、楽しく入浴できるよう支援されている。また、重度の入居者は2人介助で安全に注意して入浴を支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の習慣、希望、状態によって好きな時に休めるよう声掛けや見守りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を、各職員が把握し副作用などの症状があった場合、医師と相談しながら適切な服薬ができるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが、生きがいを持って生活を送っていただけるよう、個別でのレクや作業などに力を入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設近隣に住まれている方が多いので、馴染のある地域をドライブして、昔を思い返すことで、刺激や気分転換に繋がるよう取り組んでいる。	病院受診の後に買い物に連れて行ったり、天気の良い日には、散歩に出かけたり、庭で、日光浴をしたりして外出支援に努められている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお金をお預かりし、ご本人様が希望される物があれば、ご家族に了承を得てから購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設で新聞を毎月作成しており、活動や近況報告をおこなっている。ご家族にも喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた空間で生活できるように配慮し、工作や行事、季節になぞらった飾り付けを行い居心地のいい空間づくりを工夫している。	ホームの窓からは、橋湾に沈む夕日や、段々畑を見渡すことができ、入居者の心の安らぎに繋がっている。玄関を入ると職員の写真を分かり易く掲示されており、リビングにはウサギと月の貼り絵が飾られ、季節感を感じることができるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で休まれたり、和室やホールなど他の利用者様と過ごせる共有スペースを提供し交流をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が居心地良く過ごしていただける様、使い慣れた家具や置物など、自由に飾っていただき、安心できる空間づくりに努めている。	居室には、ベッド・洗面台・卓子が備え付けられており、時計や家族の写真・本人の思い出の写真が飾られてある。訪問当日は窓を開け空気の入れ替えをして清掃およびベッドメイキングがなされており、清潔感のある居室となっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや福祉用具を活用し、利用者様の出来ることを増やす努力を行い、自立した生活が遅れるよう支援している。		